

令和3年度地域活性化活動助成事業 活動概要

ミモザの会

代表 大川 幸枝

1 はじめに

平成30年7月から取組を始めたこの会へは、次の二つの願いを込めている。

- ① 美しい歌詞に、日本の心が込められている歌（童謡や唱歌）を子どもたちに歌い継いでいきたい。
- ② 四世代が集い、温かく和やかな時を創り出し、子育てについて共に考え、語り合うことにより、地域ぐるみで子どもたちの成長を見つめていきたい。

2 活動の様子

- ・毎月第4土曜日 10:00～11:00
- ・対象は、乳幼児から高齢者までの地域住民
- ・参加者は、毎回20名程度（メンバーは決まっておらず、毎回自由参加）

毎月、その時季にふさわしい曲を数曲選び、それらの歌にまつわる話も交えながら、みんなで歌ったり、CDを聴いて情景を思い浮かべたりしながら、鑑賞している。美しい日本のことばにふれ、子どもたちに日本の心を伝えたいという願いから、美しい歌詞で紡がれた歌を選んでいく。

毎回、参加者へは、その日に歌う歌詞とともに、この会への思いを綴った「ミモザの記」を配布し、会の終了後には、その回のふり返りを「ミモザの記」にまとめ、参加者の手元に郵送している。参加者の心をつなぐものになればと、毎月2回ずつ発行しており、本年度1月末で、54号になるが、この便りが届くのを心待ちにしてくださっているのがありがたい。

今年度は、コロナの感染拡大防止のため、4月から6月まで休み、7月に再開したものの、8月・9月にまた休会となり、10～12月までは活動することができた。12月には、「花咲く郷 祈りの家」で毎年開催しておられる、クリスマスコンサートに、ミモザの会からも参加させていただいた。

感染拡大防止のため、以前のようにのびのびと歌を歌うことができないので、本年度も昨年度に引き続き、

- ・参加者である社会福祉協議会の職員である男性によるピアノ演奏&トーク
- ・いろいろな本の紹介や絵本の読み聞かせ
- ・社会を明るくする運動へ、町内の中学生が応募した優秀作文の紹介、

なども行った。

7月には、統合して本年度開校した周防大島中学校から、総合文化部の生徒さんと先生方が参加して、新しい学校生活の様子を紹介していただき、参加者との交流ができた。1月・2月は休会しているが、3月になったら再開したいと、準備中である。

3 活動の成果

子どもの参加が難しいのが課題である。しかし、音楽をとおして交流できるこの会を楽しみにしてくださっている方々は多く、月に一度の、わずか1時間の集いを、喜んでくださっている。毎月、「花咲く郷 祈りの家」の庭に咲く四季折々の花々に迎えられ、そういう庭の醸し出すあたたかい雰囲気、心を和ませ、元 教会の会堂という特別な場で音楽を楽しむひと時は、日常から切り取られたような心地になれるひとときでもある。参加者は、そういう時を求めて、集ってくださるのではないだろうかという気がしている。

4 課題

活動を始めて4年半が経過した。参加者による口コミで毎回新しい方が参加してくださっている。できることなら、子育て世代の方に参加していただきたいという願いをもち、各小学校で行われる就学時健診や一日入学での「子育て講座」などの機会に、この会の紹介をしている。

本年度もコロナの関係で、会の自粛期間が長かったが、部活動の一環として中学生の参加があったことがありがたかったので、今後も、よい機会をとらえて子どもたちや子育て世代への参加を呼びかけ、みんなから親しみをもっていただけるような会の運営をしていきたいと思っている。